

第18回中小企業振興会議 議事要旨

日 時	令和3年3月26日（金）午後2時から午後4時まで
場 所	クリエイション・コア東大阪 南館3階研修室
出席者	<p>○中小企業振興会議委員 芦塚委員、隅田委員、大塚委員、大西委員、稲葉委員、加藤委員、衣笠委員、草場委員、糸野委員、西松委員、檜尾委員、柳山委員</p> <p>○事務局 栗橋都市魅力産業スポーツ部長、尾上都市魅力産業スポーツ部次長、米田都市魅力産業スポーツ部次長、浦塘産業総務課長、太田モノづくり支援室長、山口モノづくり支援室次長、西モノづくり支援室次長、藪内商業課長、大西労働雇用政策室長、久保労働雇用政策室次長、沖産業総務課主任</p>
案 件	<p>(1) 東大阪市中小企業振興会議最終報告（提言）について</p> <p>(2) 新型コロナウイルス感染症関連の施策報告について</p> <p>(3) 令和3年度 新規・拡充事業（案）の概要について</p> <p>(4) その他</p>
議事要旨	<p>開会</p> <p>○案件1【東大阪市中小企業振興会議最終報告（提言）について】 東大阪市中小企業振興会議提言・報告に基づき、芦塚モノづくり振興部門会長より報告、加藤商業振興検討部会長、衣笠労働雇用部門会長より各部会の提言を行った。</p> <p>【以下質疑応答】</p> <p>(委員) 3つの部門が集まって、今こそ境界を越えて手を組むべきだと考える。 工業と商業が活性化されると雇用が生まれる。</p> <p>(委員) 例えば、SEKAI HOTELの家具や照明などは市内製造業者の製品である。 このように商店街も自分たちの店をショールームとして使っていくような戦略があると思う。 商業と工業が上手くマッチング出来ればと考える。</p> <p>(委員) 報告で言われたように、商業部会ではワーキング委員が有効に機能しているのではないかと。 ワーキングメンバーはどのように選定されたか。</p> <p>(事務局) 部会では、様々な分野の方に参加いただいているが、テーマごとにさらに専門的な知見をお持ちの方に意見をいただきたい場合など、必要に応じて臨時委員という形で参加いただいた。</p> <p>(委員) 商業部会の報告を聞いて、モノづくり振興部門会議でも工業以外の知見をお持ちの方を招聘すべきであったと感じた。より有効な議論をするためには、異なる考えを決められた場を出し合うだけでは調整は難しいと思う。部門会議ごとに壁を作って議論するだけではなく、他の部会の委員にも入って貰って、違う立場から意見をいただいたり出来れば、より柔軟性が高まって連携の可能性も高まるのではないかと印象を受けた。</p> <p>(委員) 東大阪在住の社員より、大阪、奈良、京都、神戸からの方が多い。仕事帰りに市内で買い物をして帰ることで流通人口を増やせると思う。うちの会社は工業であるが、社員は商業のクライアントであるという観点からぜひ、他の部会との連携を図りたい。</p> <p>(委員) 他の部会に自由に参加しても良いとなると、お忙しい方ばかりなので参加されにくいと思う。例えば、特定の目的やテーマがあればそれにメンバーを決めてしまった方が進めやすいのではないかと。</p> <p>(委員) 商業施策として個店支援を掲げられているが具体的にどういったものか。 モノづくり振興部門会議では、施策としてやる以上、公平性や平等性を十分に配慮する必要があるといった課題がある。その点、商業では一部の個店を取り上げて支援するということが実際に可能であるか教えていただきたい。</p>

(事務局)

新ビジョンにも記載しているが、一部の個店に向けて支援するイメージではなく、商店街の基礎は個店であって、我々行政が施策を考える時に個店という視点を忘れてはならない、ということである。それは直接個店にお金を出すといったものではなく、今後、個店が力をつけて行くためには施策情報をしっかり届ける必要がある、と考えており、一部の方に支援が偏ることがないように努めている。

(委員)

今回、モノづくり振興部門会議では、提言ではなく報告という結果になった。
1回2時間程度の会議を4回行っただけでは、時間が足りなかった。
部会の前に委員同士で個別に話をし、市に提案しても良かった。

(委員)

3部門の意見を伺える機会が増えれば、連携を通じた様々な施策が生まれやすくなるのではないかと感じた。

(委員)

一部委員の発言が続いたので、まだ発言されていない方で感想などあれば一人ずつお願いしたい。

(委員)

今までの話を聞いて、情報発信が非常に重要ではないかと感じた。
東大阪のまちを市外、他府県に発信していくためには、ITが必要不可欠だと考える。
優れた製品を持っていてもそれを発信する術がなく、埋もれていく企業がたくさんある。
この課題を取り上げて、予算化・施策化に繋げて欲しい。

(委員)

地元企業に就職する学生が少ないのは、地元企業を知らないからで、合同説明会やインターンシップ、モノづくり体験等で学生を獲得したい企業はたくさんある。企業と学生をマッチングできるようなプラットフォームがあれば良いのでは。

(委員)

マッチングという観点で言えば、就活ファクトリー東大阪という良い施設がある。ただ、認知度が低いため利用者が少ない。施設は布施にあり、東大阪の北部や東部の方に対して、幅広く支援できるように出張セミナーなどの提案をしたが、IT化という話を聞いてこういったセミナー関連もIT化しやすいのではないかと感じた。

(委員)

おおさか東線が開通して、市外からの就労者が増えていると思われる。これからモノレールも延伸される予定で、交通事情も大きく変わる。こういったエリアも変化が必要になってくる。

(委員)

経済が回らないと雇用が生まれない。現状（コロナ禍）では、求人もかなり減っていて厳しい状況にある。企業と学生のマッチングという観点で言えば、労災保険適用のインターンシップをするというのも1つの提案である。インターンシップは学業であるため難しいかもしれないが、外国人留学生などは賃金が貰えるインターンシップは、かなり利点になると思う。

(委員)

東大阪は筋金入りの経営をしている中小企業が本当に多い。
大阪市に隣接する堺市のように港湾、臨海工業があるようなところとも違う、東大阪の特性の上に成り立っている何かがある。東大阪の特性を生かしながら目指すべき方向は何かを常に考え、より伸ばしていく視点があっても良いと感じた。

○案件2【新型コロナウイルス感染症関連の施策報告について】

資料2に基づき、事務局より説明。

○案件3【令和3年度 新規・拡充事業（案）の概要について】

資料3、参考資料1に基づき、事務局より説明。

○案件4【その他】

資料4、参考資料2に基づき、「令和元年度 中小企業振興施策実施状況報告」に寄せられた意見の概要と本市の考え方を事務局より説明。

=閉会=